



進学先

和歌山県立医科大学
薬学部

山川 悠比さん

向陽高校 環境科学科
吹奏楽部

薬学部・志望校考えたのはいつ頃ですか。

山川: 中学生のときです。ちょうど自分が中学のときに和歌山県立医科大学に薬学部ができるってなって。すごい綺麗なキャンパスで、新しいし、和歌山だし、いいんじゃないってお母さんが教えてくれて。それで「へえー、いいな」ってなりました。小さいときは看護師になりたいなって気持ちもあったんです。最近、小学校のときの文集を改めてみたら「10年後の私」みたいなのがあって。そこには「小さい頃によく病院に行っていて、そこで看護師さんが優しくしてくれたから看護師っていいな」みたいなことが書いてありました。「10年後の私も看護師になる夢を持っていたら嬉しいです」って。今読むと、こんなこと思っていたんだなってなりました(笑)。で、看護師に興味があったけど、小5ぐらいのときにイベントでたまたま薬剤師体験をしたことがあって。健康フェア?みたいなイベントの職業体験で、看護師をしてみたかったけど人がいっぱいできなくて。じゃあ薬剤師やってみようかなって体験しました。そこで「向いている」って言われたんです。それでちょっとテンションが上がって(笑)。薬剤師っていうのがあるんだなって知った最初のきっかけがその体験でした。で、中学で和医薬ができて、行きたいなってなったという流れです。この前、中学校の先生にも大学合格の報告に行ったんですけど「中学のときから和医薬って言ってたもんね」って言われました。中学で志望校も決めて、高1・高2でオープンキャンパスにも行きました。吹奏楽

部なので、夏休みだったら行けなかったと思うんですけど、ちょうどオープンキャンパスが10月だったので。



吹奏楽と勉強の両立はどのようにしていましたか。

山川: 志望校ももう決めていたので、高1のときから推薦をとるつもりで勉強をしていました。だから高1の評定とかもすごい高くて4.8。でも高2でサボった分ちょっと落ちて、最終4.6です。勉強は「やらないとできないからやる」という意識だけです(笑)。でも、「やったらできる」みたいな感じでした。あと、部活を言い訳にするのはちょっと違うかなと思って。だから勉強もちゃんとしようとは考えていました。最初は予習も頑張ってやっていこうと思っていたんですけど、全然無理で。結局定期テストでめっちゃ詰めこむ感じではあったんですけど。でも小テストとかの勉強は普段からちゃんとするようにしてました。やらないとできないから(笑)。サボったときは結果も全然ダメだけどやったらできるっていうのを知っていたから、ちゃんとやっていたっていうのはあるかもしれないです。



吹奏楽部に入ったきっかけや、やっていてよかったことは?

山川: 吹奏楽部は、みんなで演奏するっていうのが楽しい。音楽が好きなんです。向陽中学校を選んだのも吹奏楽に入りたいからっていうのが一番大きい理由で。小学校のときにピアノをやっていたっていうのもあるんですけど、お母さんが音楽好きでラジオとかも音楽系を聴いていて、それで自分も好きになって。で、吹奏楽部に入りたいなって思ったのは「スウィングガールズ」っていう映画を観たのがきっかけです。音楽が好きだし、カッコいいし。主人公がやっていたのがテナーサクソだったから、部活体験でもサクソをやらせてもらったらすごく音が出て、先輩がめっちゃ褒めてくれて。それで向いているかもって(笑)、サクソにしました。吹奏楽部でよかったことは、自信がついたこと。みんながいる中で、もっとこうしたら良くなるとかどう思ってるかを伝えたり、ソロを聴いてもらったり。あと、おもしろい人たちが周りにいたっていう環境もよかった。でもやっぱり一番は、大人数での演奏。みんなで一つのものを作るっていうのがすごいやりがいがあるし達成感もあるし。演奏会とかが終わった後に、みんなから「すごいよかった」って言ってもらえたのもめっちゃ嬉しかったです。

Academy Campusに来てくれたきっかけは？

山川： もともと、あまり塾に頼らずに自分でしっかりやっていけたらいいって思っていたんですけど、やっぱり、やり方が分からないっていうのでいっぱいいっぱいになってしまっただけで、それで塾に行った方がいいかなって、高2の終わりくらいからアカデミーに来始めました。中学生のころは途中まで塾に行っていたんですけど、辞めてからの方が自分で勉強をしやすかったので、その流れで高校に入っても塾には行ってなくて。でも高1の冬に模試を受けたときに結果に絶望して。これはやばいと思って、そのときはアカデミーではない他の塾に行き始めました。でもその塾の授業がちょっとしんどくなってきて、高2の夏に辞めて。で、高2の11月頃にアカデミーでヨッシー(吉田先生)のリスニングの授業(ACクラスライブ授業)の体験を受けました。その後、一番初めに受講スタートしたのは、亀田先生のサテライン(代ゼミサテライン講座)。亀田先生の授業がいいっていうのは友だちから聞いていたから。アカデミーに来てみたら、なんか、前に行っていた塾と全然違いました。前の塾、怖かったです(笑)。でもアカデミーは全然怖くない(笑)。フレンドリーだし、雰囲気めっちゃいいし、喋りやすい。前の塾では、クラス分けのテストもあって、一応一番いいクラスだったんですけど、その中でたぶんできていない方で。授業のテンポもめっちゃ早いし、全然ついていけなくて、心が折れて(笑)。知っている人が少ないっていうのもあったのかもしれないです。行ってしんどかった。アカデミーは、自習室もよかったです。ほぼ毎日来ていたと思います。部活の後に家に帰ったら寝てしまうから自習室に来て。ちゃんと勉強時間が確保できたから自習室にも来続けてよかったなって思います。



Academy Campusのこと、受験勉強について教えてください。

山川： ヨッシーの授業(ACクラスライブ授業)は、すごくテンポがよかったです。共通テストの授業で、教えてくれる解き方が真似しやすかった。あと、ちゃんとアウトプットさせてくれるのがすごいよかったです。長沼先生の国語(ACクラスライブ授業)は、初めて体験授業を受けたときもすごいっ！って思いました。あのイラストとか声とか喋り方とか、授業がすごく頭・記憶に残りやすい。テストのときとかに「あ、この単語、授業であんな感じで言ってた」とかいうことまで思い出せました。

サテライン(代ゼミサテライン講座)を一日で仕上げるのも(AC特別講座:1Day特講)〈年末年始特訓〉など何回か受けました。共通テストの生物とか化学。一日しっかり集中して勉強をやったって思えたのが、すごいよかったです。自分だけで勉強するっていうことをずっとやっていたら絶対どこかでだらけてしまう日があったので。周りにみんながいる中で、一日しっかりやるっていうのがすごい良かった。モチベになりました。みんな頑張っているし。

受験勉強に関しては、自分はほとんどが共通テストの勉強で、二次の勉強ってあんまりしてなくて。だから共通テストが終わってからはすごいしんどかったです。あと、夏。夏はほとんど勉強できていなくて、精神的にすごいしんどかったです。部活が終わってからアカデミーに来たら、もう朝からみんな自習しているし。吹奏楽部のみんなでお昼ご飯を食べながら、やばいってみんなで泣く日があったりしました(笑)。そんな夏にもらった吹部デラックス(AC特別講座:夏休み、吹奏楽部の少ないオフ日に最大限の受験勉強ができるように設定された時間管理型の自習環境)もよかったです。みんなアイスを食べたのを覚えてます(笑)。あと、休憩の後の勉強が始まる前に岡先生が話してくれる豆知識みたいなのを聞くのが楽しかったです。A10神経の話とか。帰ってから手帳にA10神経とか書いてました(笑)。手帳には、その日にあったこととか、頑張ろうって思ったこと、面白かったこと、モチベになることとかを書いていました。手帳は大学に行っても使おうと思っています。

あと、志望校に迷いが出た時期もあって。高2の夏に学校で参加したサイエンスツアー(向陽高校で毎年希望者を募って、夏休みに筑波研究学園都市を中心に行われるツアー。2024年度は7月に2泊3日の日程で物質・材料研究機構(NIMS)、農研機構、JAXA・筑波宇宙センター、理化学研究所(和光地区)、東京大学へ。[訪問先は毎年変更あり])で研究室とかいろいろ行ったことが

あったんです。研究職には興味ないと思ってたけど、いろいろなところに行って研究者の人と話をしていたら、研究職もいいなと思った経験もあって。和医薬で県内卒の推薦(学校推薦型選抜・県内卒:卒後2年間、県内の医療機関で研修を実施し、地域で活躍できる薬剤師を養成)を考えていたんですけど、じゃあ研究をしたってなったらどうなのかって、高3の途中で志望先を迷ったことがありました。そのときにアカデミーのチューターさんにいろいろ話を聞いてもらいました。和医大薬学部1期生の。「推薦で行って、研究職に興味があれば」とか、薬学部についてとか、大学院のこととか。「化学とか生物が好きなら薬学部のこういう勉強はおもしろくなってくると思う」とかいろいろ教えてくれたし、よく相談にのってもらいました。

あと、岡先生にもよく面談をしてもらいました。「数学の勉強法どうしたらいいですか」とか「進路迷い始めたんですけど」とか。部活の悩みとかも。なんかそういう話とかも先生にできたのは、アカデミーだからかなって思います。

後輩へのメッセージをお願いします。

山川： 自分は、うまく手を抜くっていうのができなかった。いろいろ全力でやって。でも、しんどかったけど、それがけっこういい感じにつながっていったっていうのもあります。だから、うまく休みつつも、自分がやるって思ったことは全力でやってほしいなって思います。あと、勉強のモチベとかやる気とかは、周りの友だちからもらったような気がするから、一緒に頑張ることのできる友だちを作る。でも、「周りの人ができてるけど、自分はできてない」というのは引っ張られずに目標は高く持った方がいいかなって思います。

インタビューを終えて

高校3年生の1年間で、おそらく山川さんが最も多く面談に来てくれた生徒だと思います。気になることがあればすぐに相談に来てくれたことで、ハードな吹奏楽部との両立の中でも効率よく学習を進めることができました。また、面談で話したことを素直に受け止め、コツコツと努力を積み重ねてくれました。素直さと継続力が合格の大きな要因になったことは間違いありません。

吹奏楽部でありながら、それを言い訳にせず、1・2年生のうちから定期考査の勉強にしっかり取り組んでいたことも、推薦合格につながった大きな理由です。早い段階で目標を定め、そのために必要なこと、目の前のことに全力を注いでいました。さらに文化祭ではバンドメンバーとして思いきり楽しむなど、勉強も行事も



全力で取り組む姿勢は、後輩たちの模範となる高校生活だったと思います。

小さい頃からの夢だった薬剤師への道につながりました。これからも今までのように明るく元気に、素晴らしい大学生活を送ってほしいと思います。合格おめでとう。これからも応援しています。